

国産杉の有効活用を通じて 脱炭素社会の実現に貢献

point 01

森林の若返りによる『吸収量』の向上



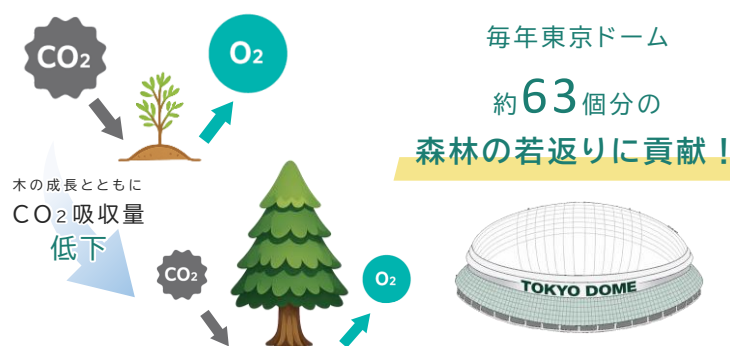
point 02

炭素を『閉じ込める』



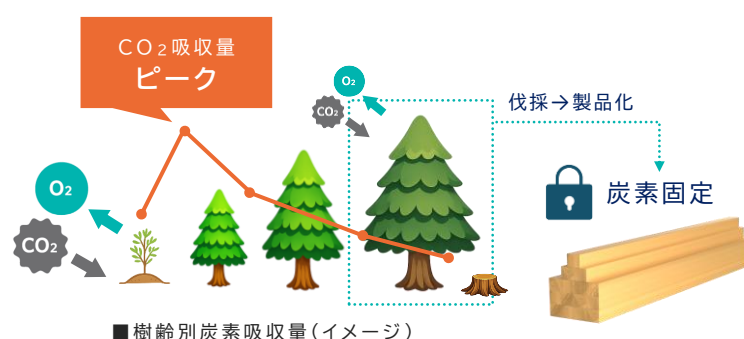
01

木は若い時ほど、より多くのCO₂を吸い込みます。私たちは、古い森を伐採した後に「若木」を植えるサイクルをすることで、森の吸収量を引き上げています。毎年東京ドーム約63個分の森林の若返りに寄与し、健全な森林の循環を支えています。



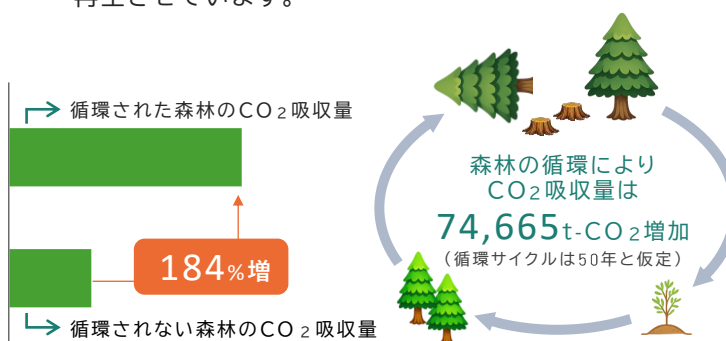
01

木は成長過程でCO₂を吸収し、炭素として体に蓄えます。私たちは、CO₂吸収量が低下した高齢の国産杉を伐採して製品化することで、その炭素を長期間「閉じ込め」ています。



02

今後50年間で、74,665トンのCO₂吸収量を高めます。古い森を、活発にCO₂を吸収する「若い森」へと再生させています。



02

私たちは、年間約23万本の国産杉を余すことなく製材し、年間炭素固定量74,860トンのCO₂を固定化しました。

